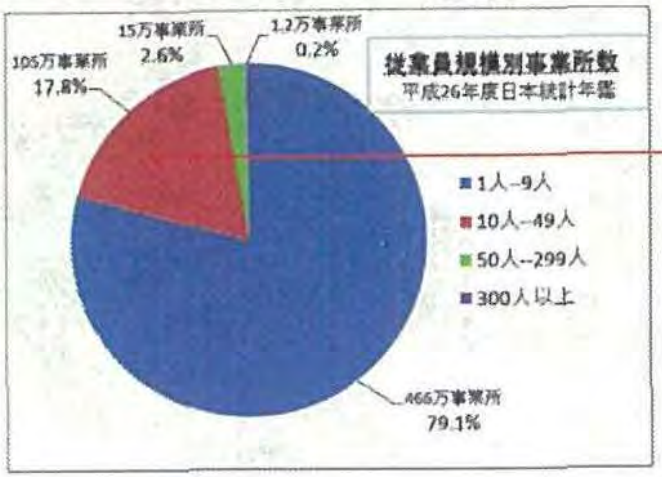
「つなぐIT」成熟度による層別化

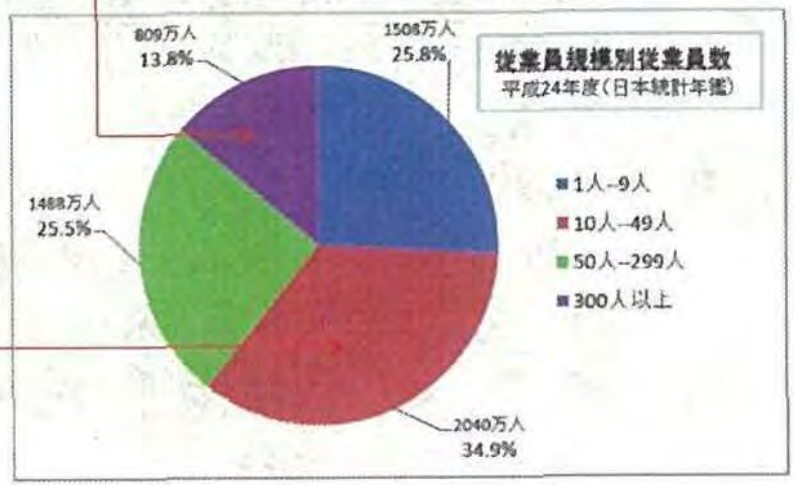
成熟度	基幹ビジネスのIT活用成熟度定義		主な対象企業
	企業内「つなぐIT」	企業間「つなぐIT」＜発注者＞	
0	紙帳票で管理	帳票郵送	1～9人企業
1	業務別にEXCELを利用＋販売・会計PKG→相互に繋がっていない	企業間成熟度：1 FAX利用	10～49人企業
2	販売PKG＋生産PKG＋会計PKG＋EXCEL→相互に繋がっていない		50～300人企業
3	基幹業務は繋がっている（但し基幹以外はまだ繋がっていない→EXCEL個別アプリが継続）	企業間成熟度：2 電子メール／WEB-EDI	IT経営実践企業
4	基幹と個別アプリを統合した企業内データ共有システム活用	企業間成熟度：3 中小企業共通EDI	IT経営先進企業
5	企業内・企業間の統合データ共有を実現した新ビジネスモデル構築	企業間成熟度：4 中小企業インダストリー4.0	

中小企業の成熟度別目標

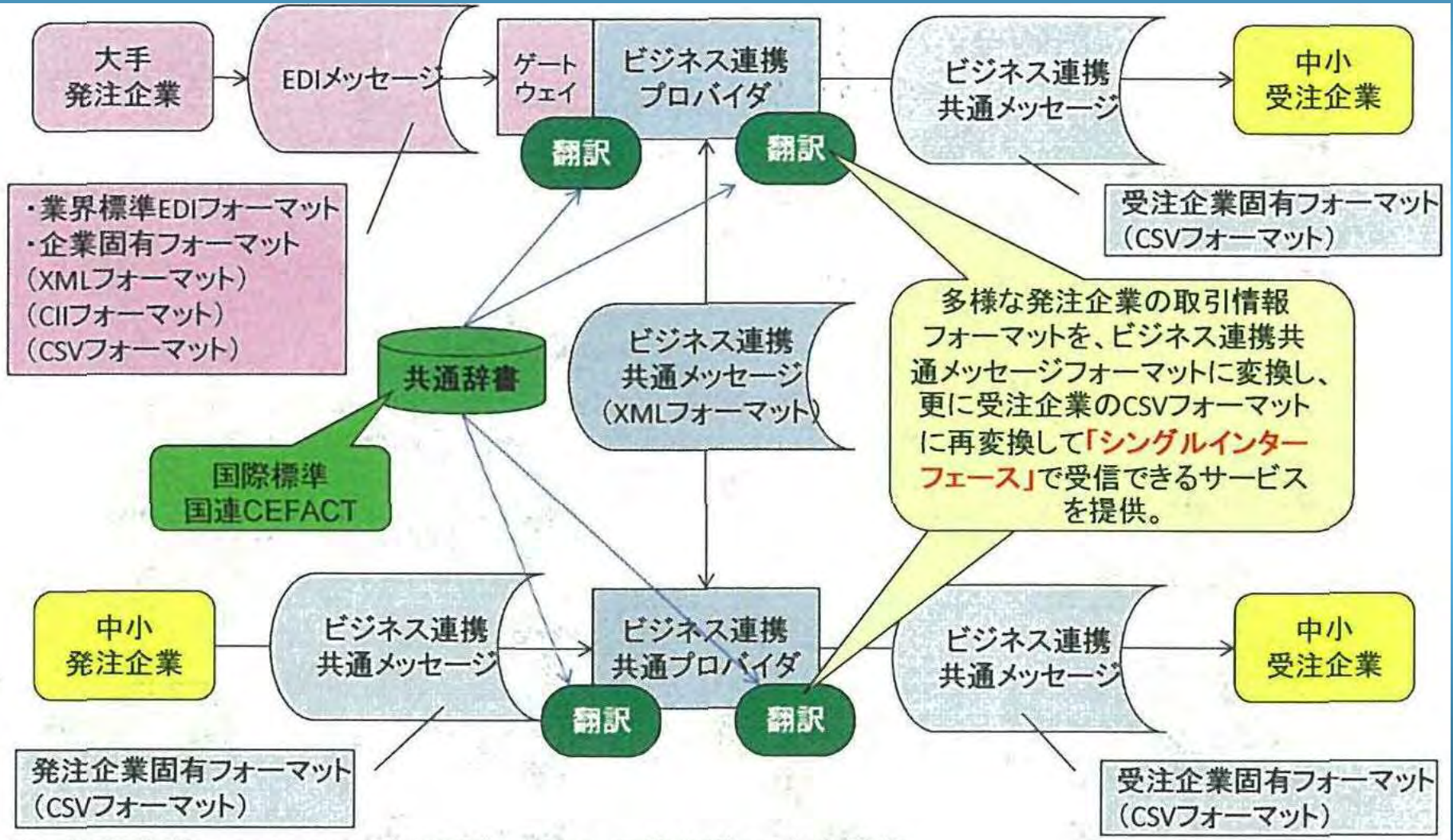
- 【目標1】IT活用空白ゾーン企業（成熟度レベル1）を企業内「つなぐIT」で成熟度レベル3へアップ
  - 従業員数10～50人企業の基幹業務のIT活用はEXCEL中心→成熟度レベル1
  - 従業員数10～50人企業は中小企業の中核部分を占めている
    - 事業所数：17.8%、従業員数：34.9%
- 【目標2】成熟度レベル3企業を企業間「つなぐIT」で成熟度レベル4へアップ

成熟度	基幹業務のIT活用定義
0	紙帳票で管理
1	業務別にEXCELを利用＋販売・会計PKG→しかし繋がっていない
2	販売PKG＋生産PKG＋会計PKG＋EXCEL→しかし繋がっていない
3	基幹業務は繋がっている（但し基幹以外はまだ繋がっていない→EXCEL個別アプリが継続）
4	基幹と個別アプリを統合した企業内外データ共有システム活用
5	企業内・企業間の統合データ共有システムを活用





ビジネス連携プラットフォームの実装イメージ



注：拡張共通EDIメッセージは国連/CEFACT国際標準に完全準拠

中小企業のIT活用支援策（まとめ）

支援策	支援施策		支援対象
	ITツール	IT活用支援	
支援策A	ITカイゼンツール	ホームドクターモデル	やる気はあるが金のない中小企業
支援策B	ビジネス連携プラットフォーム（企業間商取引用）実用化	ビジネス連携プラットフォームの普及	全ての企業が対象 ・大企業：中小企業取引ツールの更新 ・中小企業：FAX利用のレベルアップ
支援策C	ビジネス連携プラットフォームと連携可能な基幹業務アプリ提供	ビジネス連携プラットフォームと連携可能な基幹業務アプリ導入支援	やる気はあるが金のない中小企業
支援策D	ビジネス連携プラットフォーム拡張版の提供	中小企業インダストリー4.0導入支援	IT活用先進中小企業